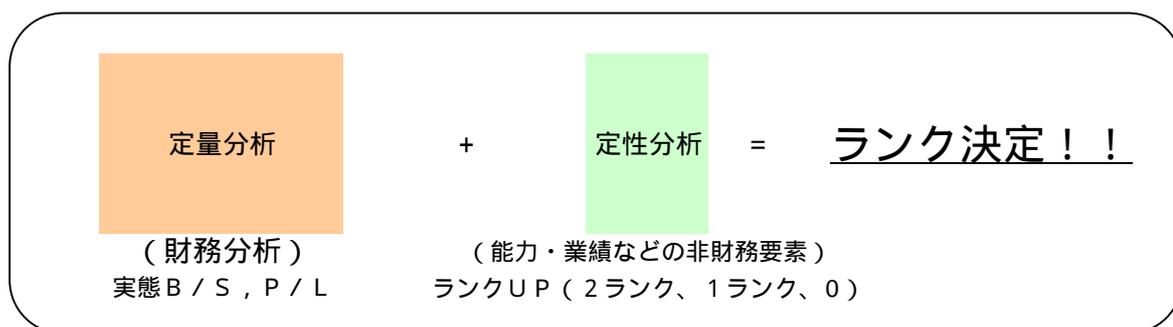


金融機関が見る決算書

提供：丸山昭一税理士事務所

- 1 金融機関が「企業格付け」を行うに至った背景
- 2 「企業格付け」方法は各金融機関によってちがう（都銀・地銀・信用金庫・・・）
- 3 「企業格付け」の基本スタイル



4 「企業格付け」ランクと債権者区分

「企業格付け」ランク		債権者区分		内容
1	リスクなし	A	正常先	業績が良好、財務内容にも問題なし
2	ほとんどリスクなし			
3	リスク些少			
4	リスクはあるが良好			
5	リスクはあるが平均的			
6	リスクは高いが許容範囲			
7	リスク高い			
8	警戒先	B	要注意先	業績低調、延滞など管理に注意を要する
9	延滞先	B'	要管理先	要注意先のうち特に管理を要する
10	事故先	C	破綻懸念先	破綻状態にはないが、今後破綻可能性あり
		D	実質破綻先	法的・実質的には破綻の事実はないが、実質的に破綻状態
		E	破綻先	法的・実質的には破綻状態

5 債権者区分のランクアップ

B	要注意先	経営改善計画書の提出	A	正常先
B'	要管理先		B	要注意先
C	破綻懸念先		B'	要管理先

6 ランクUPのための改善

債務超過先への融資は金融機関もリスク（貸倒引当率）
 営業利益のマイナスは最終利益がプラスでも赤字扱い
 雑収入による経常利益のプラスは定款変更も考慮
 「一過性」の赤字は金融機関に理由及び改善を説明
 決算報告会などで金融機関と接触を！！

